

# 令和3年度看護FD研修会 『看護学コースDPルーブリックの完成を目指す』を実施して

山田 隆子・吉田 和美・滝口 里美・川野 綾・土路生明美

## 1 緒言

今後の予測困難な時代にあって、学生たちは卒業後も含めて常に学び続けていかなければならない<sup>1)</sup>。そして、学生自身は、「教えられる」という受動的な学びではなく、自ら問題意識を高くし、目標を明確に意識し主体的に取り組み、その成果を評価することで自律的な学修者となる<sup>2)</sup>。自律的な学修者を育成するために教育者は、「何を教えたか」ではなく、大学教育が学修者本位の視点の「何を学び、身に付けることができたのか」という点に着目し、学位課程全体としてのカリキュラム全体の構成や、学修者の知的習熟過程等を考慮する必要がある<sup>3)</sup>。そのためには、大学教育の質的転換が必須であり、3つの指針『卒業認定・学位授与の方針』（以下DP）、『教育課程編成・実施の方針』（以下CP）及び『入学者受入れの方針』（以下AP）<sup>4)</sup>が重要である。大学はこの3つのポリシー（以下3P）を明確に示したうえで、個々の学生の学修効果の把握や評価を行い卒業認定することで、学位授与について社会に対し説明責任を果たす<sup>5)</sup>ことが可能となる。大学が示す3Pの中で、大学が果たす役割が表現されている必要がある。そのためには、学生の教育に関わる全ての教職員が大学の3Pを共通理解し、連携して質の高い教育に取り組む必要がある。

学習成果の具体的な把握・評価方法であり、より効果的なツールとしてルーブリックが挙げられている<sup>6)</sup>。ルーブリックには、個々の課題に対応する課題特定ルーブリックと長期的な発達を捉える目的をもつ長期的ルーブリックがある<sup>7)</sup>。経験や専門領域の異なる教員同士が教育観と評価方針を共有してルーブリックの諸項目を検討することで、多様な学生に対するより一貫性のある評価方法を模索することができる<sup>8)</sup>。DPルーブリックの各レベルの到達段階と各教員の科目ルーブリックの到達段階と整合性をとることが望まれる。

これまで看護学コースのFD活動としてパフォーマンス評価の抄読会や外部講師を招聘した研修会、実習ルーブリックを導入した学内教員からの話題提供などを行っている。令和3年度は『看護学コースDPルーブリックの完成を目指す』を開催し、コースで作成途中のDPルーブリック各項目の内容を教員間で検討する場を設けることにした。この度は、研修に関する参加者のアンケートを分析し、若干の考察を報告する。

## 2. 研修スケジュールと内容

### 2.1. 研修対象

A大学看護学コース看護教員

### 2.2 研修日

令和3年12月23日

## 2.3 研修にむけた事前準備（研修日2週間前）

### 1) 看護FDの研修当日にむけた準備

#### (1) 看護FD研修『看護学コースDPルーブリックの完成を目指す』の企画・運営

看護学コースの看護教員に意見を求めたい視点を明確にしたうえで、限られた時間内で討議ができるように、担当者間で打ち合わせをして運営方法を検討した。それぞれのグループで円滑な討議が進むよう、ディスカッションポイント、建設的な討議にむけたルールを提示した。

#### (2) 小グループ検討にむけたグループ構成

小グループで討議がしやすいように、小グループが担当する観点を、「知識・技能」2グループ、「思考力・判断力・表現力」2グループ、「主体性・協働性」2グループの計6グループとした。研修参加希望者を職位や専門領域を異にするように、1グループ4～5名となるよう、事前にメンバー構成をした。

### 2) 参加者の事前準備

研修までに参加者には、DP検討メンバーがMicrosoft Streamで作成した8分程度のDPルーブリックに関する説明動画を視聴し、以下の参考資料を読み込んでもらった。事前準備の期間は、2週間とした。

〈事前準備資料一覧〉

- ①平成30年6月日本看護系大学協議会『看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標』
- ②『看護学コース3P』
- ③県立広島大学『課題型探求型地域創生人材ルーブリック』
- ④DPルーブリックの担当箇所の「観点」とレベル4の内容

## 2.4 研修スケジュールと研修方法

研修会は下記の様な内容で、開催時間は90分とした。研修はMicrosoft Teamsを用いて実施した。全体説明や発表・全体討議等はMicrosoft Teams「一般」で実施し、小グループでの検討は、チャンネルに分かれて実施した。討議内容の記録ができるよう討議結果をエクセル文書に書き込むことができるようにした。それぞれの小グループの進捗状況が他のグループにもわかるように、エクセルファイルはリンクにして各チャンネルに貼り付けた。全体討議ではエクセルファイルを共有し、小グループの代表者が発表した後、質疑応答の時間を設けた。

表1. 研修内容と所要時間

研修内容	所要時間
*DP 検討メンバーによる DP ルーブリック (案) の説明 ・看護学コース DP ルーブリック (案) の概要説明 ・ディスカッションポイントの提示、質疑応答	20 分
*小グループに分かれてディスカッション ・DP に対する観点の検討 コアコンピテンシーの卒業時到達レベルを基に、DP と観点の整合性や表現方法の検討 ・レベル4 の内容の検討 卒業時レベルとしての適切性、観点の表現の妥当性、表現方法の検討	30 分
*グループ討議内容を発表、全体討議、質疑応答	40 分

## 2.4 終了後アンケート

研修終了直後にMicrosoft Formsで送信したうえで収集した。質問項目は、「事前資料の分かり易さ」、「関心度」、「準備性」、「表現性」、「協働作業の意義」、「今後の教授活動への活用性」について問い、質問内容は表2. の内容にした。回答は、「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「思わない」の4択で構成した。この他に、職位、自由記載を設けた。

表2. アンケートの質問項目・質問内容

質問項目	質問内容
事前資料の分かり易さ	研修の案内や事前準備の説明はわかりやすかった
関心度	本日のテーマに関心をもって参加できた
準備性	事前説明動画と資料を閲覧し、準備したうえで参加できた
表現性	グループディスカッション時には、自分の考えを伝えることができた
協働作業の意義	DP ルーブリックの作成過程を協働できたことは有意義であった
今後の活用性	この研修で深めた DP の理解を今後の教授活動に活かすことができる

## 2.5 分析方法

質問項目別に記述統計（度数、回答率の算出）を行った。自由記載の内容については、同じような回答を集め、概念名を命名した。担当者間で共有して、結果の妥当性、真実性について検討を行った。

## 2.6 倫理的配慮

アンケート調査の目的を伝え、匿名性を遵守することを記載したうえで、アンケート結果を公表することへの同意の可否を確認するチェックボックスを設けた。

### 3. アンケート結果

#### 3.1 参加者

看護学コースの看護教員29名中、参加した者は28名（参加率96.6%）で、アンケート回答者は23名（回答率79.3%）であった。23名の職位は教授5名（21.7%）、准教授5名（21.7%）、講師5名（21.7%）、助教・助手8名（34.8%）であった。

#### 3.2 研修に関する評価

アンケートによるFD研修の評価は図1の通りである。

「事前資料の分かりやすさ」「関心度」「準備性」「協働作業の意義」については、回答者全員が肯定意見（「そう思う」、「ややそう思う」と回答した。なかでも、「協働作業の意義」の「そう思う」が最も多かった。「表現性」については、約9割強が「自分の考えを伝えることができた」と回答し、1割弱が「グループディスカッション時には、自分の考えを伝えることができた」とは「あまり思えない」と回答していた。「今後の活用性」を示す設問「この研修で深めたDPの理解を今後の教授活動に活かすことができる」も、約9割の回答者が「そう思う」「ややそう思う」と回答していたが、1割弱の回答者が「活かせると思えない」という回答であった。

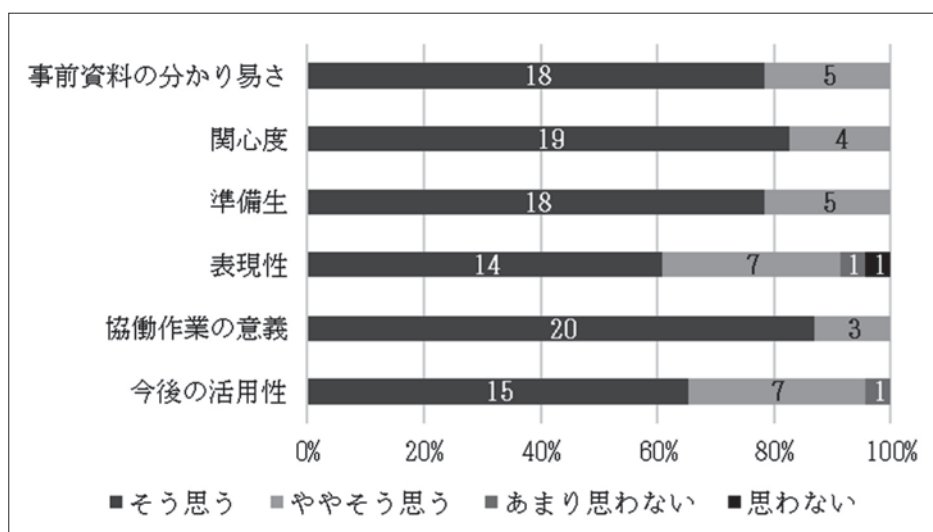


図1. アンケートによるFD研修の評価

#### 3.3 自由記載

##### 1) 研修会運営やスケジュールに関すること

3.2の質問項目の自由記載の内容と概念名は、表3の通りである。

研修当日のスケジュールやディスカッションポイントに関しては、「理解が進む説明動画」が効果的だったという意見があった。DP検討メンバーと看護FD、専門領域との連携などにより「DP検討メンバーの説明による効果的な事前準備」があったことで、理解が進んだという意見があった。また参加者は、事前準備から研修当日のスケジュールが適当であったと「事前準備から研修までの効果的な学修」が図れたという意見があった。しかし、参加者によっては「課題の多さが負担」「課題に時間がかかった」「(課題の読み込みに) 努力を要した」と回答している者がおり、「事前準備や運営に対する参加者の思い」が表出されていた。

表3. 自由記載の内容と概念名

概念名	記載内容
理解がすすむ説明動画	動画で説明されていて、話し合う要点が理解しやすかった (6件) 動画は大変よかった (2件) 研修の内容を Stream でみることが資料を読むだけでなく効果的だと感じた ちょうど良いタイミングで説明動画を見ることができた
DP 検討メンバーの説明による効果的な事前準備	DP 検討メンバーから、説明動画を見る前に事前に説明を頂いたので、事前準備に取り組みやすかった 資料、説明動画などがアップされており、専門領域の DP 検討メンバーからの事前説明があった
事前準備から研修までの効果的な学修	事前準備を丁寧にしていただいたおかげでディスカッションが建設的に進んで内容も深めることができた (3件) 説明動画での説明や、資料も多く、研修前に準備する材料があり取り組みやすかった (2件) 研修までに長過ぎず短過ぎないスケジュールで、Teams の投稿があり資料の事前確認ができるように準備されていて、理解できた (2件) 案内や事前の説明動画などを用意していただいたおかげでスムーズに参加できた
事前準備や運営に対する参加者の思い	事前に担当グループで DP 検討メンバーを中心に 10 分程度の協議時間を設けてもよかった 資料の優先順位の整理に時間がかかった たくさん見なければいけないと感じてしまい、負担に思った それなりに努力を要した

#### 4. 考察

この度のディスカッションは、職位や専門領域が異なるメンバーで実施できるように工夫した。経験や専門領域の異なる教員同士が教育観と評価方針を共有してループリックの諸項目を検討することの有効性<sup>9)</sup>が述べられており、自由記載の「関心度」や「準備性」で参加者全員から満足が得られた回答であったことから参加者間で検討したことは意義があったと考えられる。また、研修の参加率が96.6%と高いことから、看護学コースの看護教員のFDに関する意欲が窺える。「アンケートによるFD研修の評価」では、「協働作業の意義」の「そう思う」が最も多かったことから、教員同士が協働作業を通して、DPループリックの達成度に求められている内容の相互理解につながったと考える。教員同士がループリックの活用方法や各項目の内容を理解するだけでなく、教育機関や専門領域として学生に示す教育観を把握しておく必要があること<sup>10)</sup>から、DPループリックを完成させ、個々の教員がDPループリックを用いて、学生に各達成度に求められている目標と関連深い科目の関係性を説明できることが今後の課題である。

研修の構成やスケジュールについては、質問項目にある「事前資料の分かり易さ」や、自由記述にあった「理解がすすむ説明動画」や「事前準備から研修までの効果的な学修」の内容から、概ね妥当であったと考えられる。自由記述「事前準備や運営に対する参加者の思い」にもあるように、事前課題が多かったが、それぞれが学修しスムーズに参加できたという参加者がいる反面、事前課題に対する負担感や、事前課題を理解することに努力を要した参加者もあり、教員間で事前課題に対する受け止め方に違いがあるとも考えられる。これは、看護学コースの中で個人の教育経験のレディネスが異なるためではないかと考える。12月末という4Qの中での研修の実施が、大学業務や教育業務等との兼ね合いで時間調整が難しく、十分に準備ができなかったという負担感が生じたこ

とは否めない。ディスカッションの中で、授業に立ち合う教員の多様な立場からとらえた現状の問題や学生の様子などの自由な意見が発言できる雰囲気づくりが必要ではないかと考える。また、アンケートにある「今後の活用性」に「あまり思わない」と回答した参加者もいることから、研修を活かして教育に即時に反映させることが難しい参加者もいたことが予測される。看護における教授は、臨床実践を教授－学習過程に統合する複雑な活動であり、FDの機会を通して発展させることができる<sup>11)</sup> ことから、コース内で討議がし合えるFD活動を今後も継続していく必要がある。

この度の看護FD研修会の参加率は96.6%と高かった。これまで看護FDを継続して実施してきたことで、教員のFDに関する必要性と参画する意識が高まったものと考えられる。FDは「学修成果・教育成果の把握・可視化」の結果を踏まえ、多くの教職員の参画を得ながら、実際に教育活動を改善していくという側面も有する重要な活動である<sup>12)</sup>。看護学コースの看護教員全員がFD活動の重要性とFDに対する意識を維持した状態で活動していくことが望まれる。DPループリックが完成した際には、実際に運用したDPループリックの評価を定期的に全教員の参画で行い、教育の質向上を目指すことが重要であると考えられる。

## 引用文献

- 1) 中央審議会大学分科会：「教学マネジメント」、2019.1.22、厚生労働省（オンライン）、〈[https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt\\_daigakuc03-000004749\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_002.pdf)〉、（参照2022-11-20）
- 2) 前掲書1)
- 3) 2016年中央審議会大学分科会大学教育部会：「『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）及び『入学者受入れの方針』（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン」、厚生労働省（オンライン）、〈[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/\\_icsFiles/afeldfile/2016/04/01/1369248\\_01\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/_icsFiles/afeldfile/2016/04/01/1369248_01_1.pdf)〉、（参照2022-11-20）
- 4) 前掲書2)
- 5) 前掲書1)
- 6) 前掲書1)
- 7) 糸賀暢子、元田貴子、西岡加名恵：看護教育のためのパフォーマンス評価－ループリック作成からカリキュラム設計へ－、医学書院、2017、東京
- 8) 前掲書7)
- 9) 小宮山陽子、青木雅子ほか：看護基礎教育におけるループリックの推移と課題に関する文献調査、東京女子医科大学看護学会誌、14（1）、15-22、2019
- 10) Diane M.Bllings,EdD,Rn,RN,FANN：奥宮暁子、小林美子、佐々木順子監訳：看護を教授すること、大学教員のためのガイドブック原著 第4版、p.8、医歯薬出版株式会社
- 11) 前掲書9)
- 12) 前掲書9)